

式 辞

春の嵐に耐えた旭川沿いの桜が暖かい春の光を浴び、本格的な春の到来を覚えるこの佳き日に、PTA会長太田直宏様はじめPTA役員の皆様並びに保護者の皆様方の御臨席を賜り、ここに岡山県立岡山操山高等学校平成二十五年度入学式を挙行できますことは、本校にとりまして、まことに大きな喜びであり、皆様に厚く御礼を申し上げます。

ただいま入学を許可された新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、ただ今をもって岡山県立岡山操山高等学校の生徒となりました。

皆さんの胸中には、様々な不安や戸惑いもあるかもしれませんが、それ以上に、高校生活への期待と意欲が満ちあふれていることと思います。

岡山操山高等学校は、明治三十三年に開校した岡山県高等女学校と、大正十年に開校した岡山県第二岡山中学校を母体とし、政治、経済、文化、スポーツ等あらゆる分野における優れた人材を多数輩出している岡山県の代表的伝統校です。また、平成十四年度には、県下初の県立岡山操山中学校を併設し、中高一貫教育のパイオニア校として、岡山県および全国の高校教育をリードする存在でもあります。

現在、岡山操山高等学校では、「高い学力」と「豊かな人間性」を備え、日本や世界の未来を切り開く「高い志」をもった生徒を育てようと、教職員一丸となって教育に邁進しています。そして、皆さんが将来、人々の生活や未来社会に貢献する真のリーダーとして活躍する「グローバル人材」として成長することを願っています。この「グローバル人材」の育成は、本校が果たすべき最も重要な使命であると考えています。

さて、これからの日本社会そして国際社会に目を向ける時、そこには超少子高齢化社会、情報化の進展に伴う問題、長引く経済不況、緊張を強いられる国際状況など、これまでの解決方法が通じない多くの課題があります。生徒諸君には、このような時代をたくましく生き抜く力が求められています。

皆さんは、岡山操山中学校・高等学校の校章を御存じでしょうか。松とかしの葉をあしらった校章は、本校草創の精神である「松柏（しょうはく）の精神」を象徴しています。「松柏の精神」とは、「他の樹木が葉を落とす冬になっても、松やかしの常緑樹は緑の色を変えない」ことから、いかなる艱難・逆境にも屈しない堅固な精神を表すとともに、優れた人物は艱難・逆境にあってはじめてその真価が明らかになることを表したものとされます。

では、艱難・逆境にも屈しない、堅固な精神とはどのようにもたらされるのでしょうか。

オーストリアの精神医学者ビクトール・フランクルは、アウシュビッツ強制収容所での自身の体験を綴った著書「夜と霧」の中で、「一つの未来を、彼自身の未来を信ずることのできなかつた人間は収容所で生き抜くことができなかつた。」と記し、自分自身の未来を信ずることができる、自分の生きる意味・目的をはっきりと掴むことができることが、人生を生き抜いていくために必要であると説いています。そして、彼はニーチェの言葉を引用しています。「『なぜ生きるか』を知っている者は、ほとんどすべての『いかに生きるか』に答えることができる。」

新入生の皆さん、岡山操山高等学校において、自分の未来や生きる目的について考え、語り合いましょう。そして、その未来や目的を実現するために何が必要か、ともに考え、

ともに努力していきましょう。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様の御入学、まことにおめでとうございます。

私たちは、本校の生徒となられた大切なお子様が充実した高校生活を送り、大きく成長されることを願い、心を一つに、全力を傾けて指導・支援申し上げたいと、決意を新たにしております。

御存知のとおり、本校では昨年、一人の生徒が亡くなられるというたいへん大きな悲しみを経験いたしました。あらためて、心からの哀悼の意を表すとともに、このような事が再び起こることのないように、教職員一同、全力をあげて、さらなる生徒理解と生徒支援に努める決意をしております。

どうか、今後とも格別の御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、御多忙の中、御臨席いただきましたPTA役員の皆様、誠にありがとうございました。改めて、心から感謝申し上げます、式辞といたします。

平成二十五年四月八日

岡山県立岡山操山高等学校

校長 松沢 克彦